

ジオパークは、その地域にある大地の特徴を、教育や観光に生かす取り組みです。具体的な活動としては減災教育の他、大地の特徴に根差した地域の産業や歴史を紹介することも含まれています。2022年9～10月は、ジオパークの活動を象徴するような2つの事業が行われましたので、ご紹介いたします。

9/24 親子有珠山登山会

有珠山は活火山です。2000年の山麓噴火以降、噴火はしていませんが、場所によって噴気が上がっていたり、火山ガスが発生しているおそれがあることから、安全のため、有珠山登山道（伊達市有珠地区から登る登山道）と外輪山遊歩道以外の山頂エリアには立ち入りできません。

しかし、有珠山周辺で生まれ育つ子どもたちに、有珠山の成り立ちと特徴を学び、未来の減災につなげてもらうため、有珠火山防災会議協議会の特別な許可を得て、親子を対象にした登山会を行いました。

88名の参加者はヘルメットを着用し2班に分かれ時間差で出発。中腹までは管理用道路をバスで登り、途中、専門家の指導のもと、2000年噴火の直前に亀裂が入った断層で、地熱を測りました。70～90℃もあり、子どもたちから驚きの声が上がりました。その後休憩を入れつつ徒歩で登り、1977年噴火時に隆起した有珠新山、そして有珠山で最も高い大有珠の山頂に到達！大きな岩々や山肌、山頂からの眺望等、記憶に残る登山会となりました。



2000年噴火の時のお話



専用の機械で地熱を測ります



伊達市街地もよく見えました

10/1 ジオパーク講座 「果物のおいしいヒミツ」



樹齢130年のリンゴの木を紹介



海霧が少ない理由に納得！

この講座では、壮瞥町の果樹園を会場に、くだもの村探検と実験を通して、壮瞥町の環境が果樹栽培に適している秘密に迫りました。

くだもの村探検では、樹齢130年になるリンゴの古木や、多品種の果樹が栽培されていることなど、壮瞥の果樹園の歴史や特徴を紹介。「火山灰や軽石が堆積し、水はけの良い大地であること」や「有珠山は、アルカリ性の火山灰を降らせる珍しい山であること」など、地質学的環境についても説明し、その後の実験では、ドライアイスの煙と、砂で作った北海道の地形模型を使い、壮瞥が「周囲の山地の影響で夏の海霧が流れ込みにくい地形」であることを紹介しました。

おいしい果物は農家さんの土づくりや栽培の技術があって作られていますが、参加者は新しい視点で果物の話を聞き、果物狩りを楽しみました。